

価格.com、「パソコン・タブレット端末」に関する調査結果を発表

所有率はパソコン 98.2%、タブレット端末 56.8%

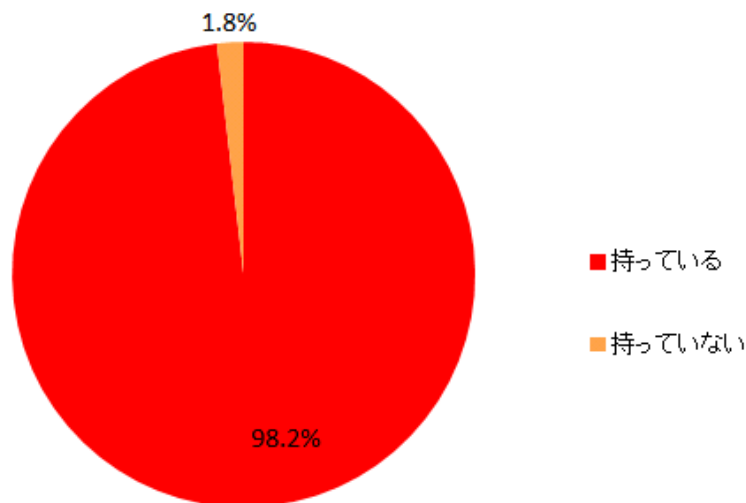
利用パソコンのOSシェア、「Windows 10」(56.6%) が前年の3倍以上に
タブレット端末の利用機会は減少傾向、スマートフォンの高性能・大画面化が影響か

カカクコムが運営する購買支援サイト「価格.com(カカクドットコム): <http://kakaku.com/>」では、「パソコン・タブレット端末」に関するアンケート調査を実施しました。利用しているデバイスやOS、利用目的などを中心に、パソコンやタブレット端末の利用状況がどのように変化しているかを探りました。結果を一部抜粋してお届けします。

パソコンの所有率：「持っている」98.2%。全世代で100%に近い所有率

パソコンの所有率については、98.2%が「持っている」と回答。2015年8月の前回調査に引き続き、所有率の高さは価格.comユーザーならではの、といえるでしょう。

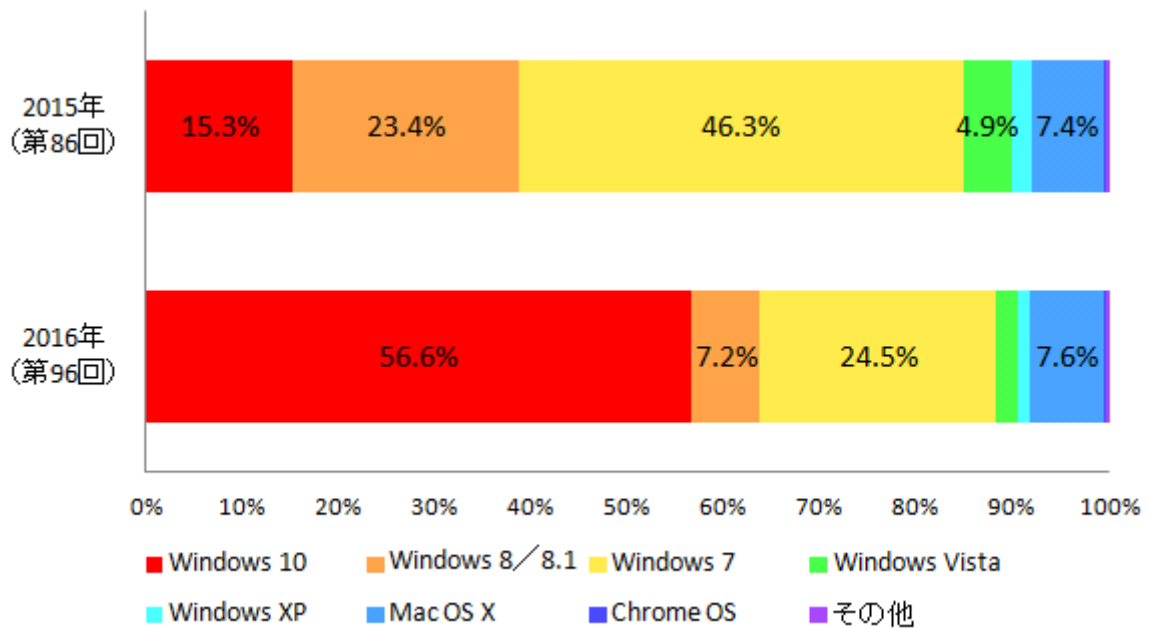
【図1 パソコンの所有率（単一回答）】



パソコンのOS：「Windows 10」の割合が前回調査の3倍以上に増加

所有しているパソコンのOSについては、「Windows 10」の普及状況に大きな変化が見られました。前回約半数を占めていた「Windows 7」が-21.8ポイント、「Windows 8/8.1」が-16.2ポイントと大きく減少し、代わりに「Windows 10」の割合が+41.3ポイントと大きく伸びています(図5-2)。「Windows 10」は、約1年間にわたり無料アップグレードを受け付けていたこともあり、2015年後半から2016年にかけて普及が進んだことがうかがえます。OSの満足度にはあまり変化は見られませんでした。

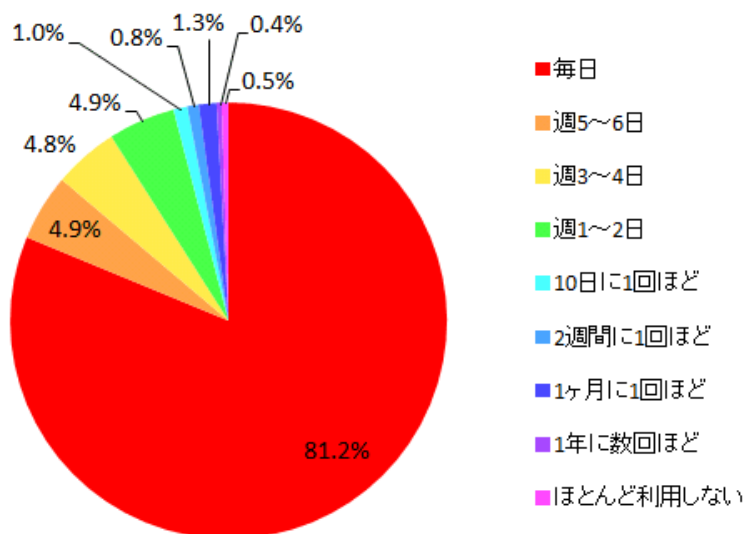
【図2 所有しているパソコンのOSの前回比較（単一回答）】



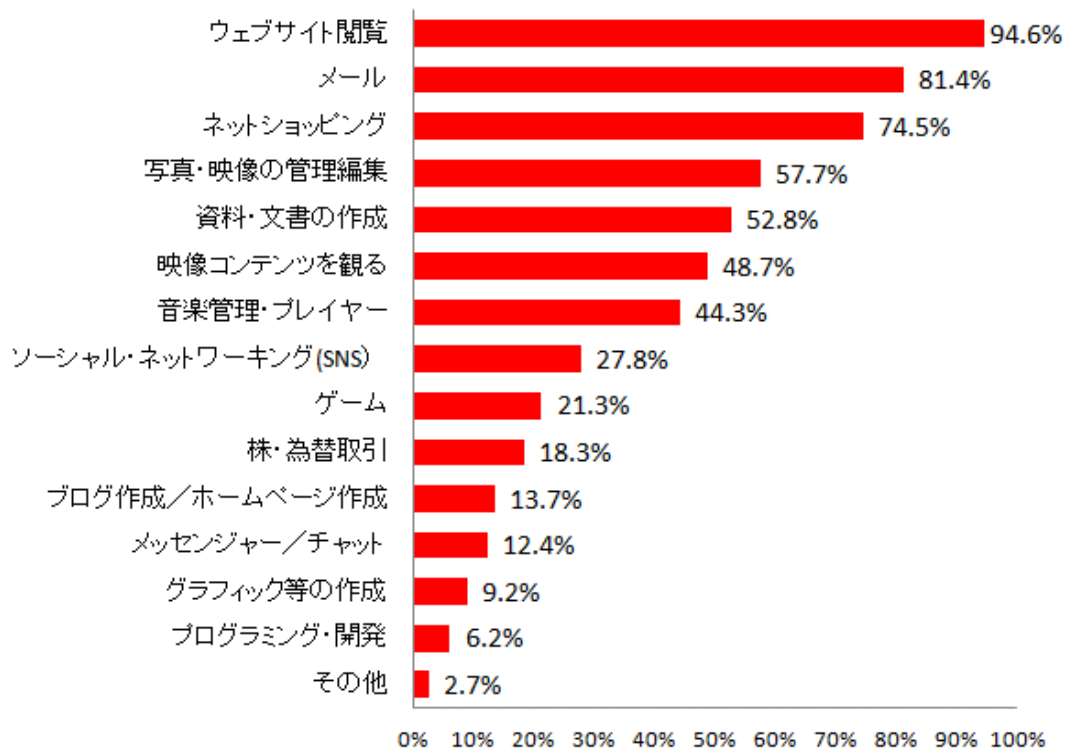
パソコンの利用頻度と目的：81.2%が毎日利用。用途のトップ3は、「ウェブサイト閲覧」（94.6%）、「メール」（81.4%）、「ネットショッピング」（74.5%）

パソコンの利用頻度と目的については、全体的に前回調査からほとんど変化が見られませんでした。前回2015年の調査では、2014年と比べてスマートフォンやタブレット端末の普及によりパソコンの利用頻度は減少し、利用目的の各項目も軒並み大きく減少していましたが、今回の調査ではスマートフォンやタブレット端末の普及が一段落してきたこともあり、パソコンの利用状況は前年とほぼ変わらない結果となりました。

【図3-1 所有しているパソコンを利用する頻度（単一回答）】



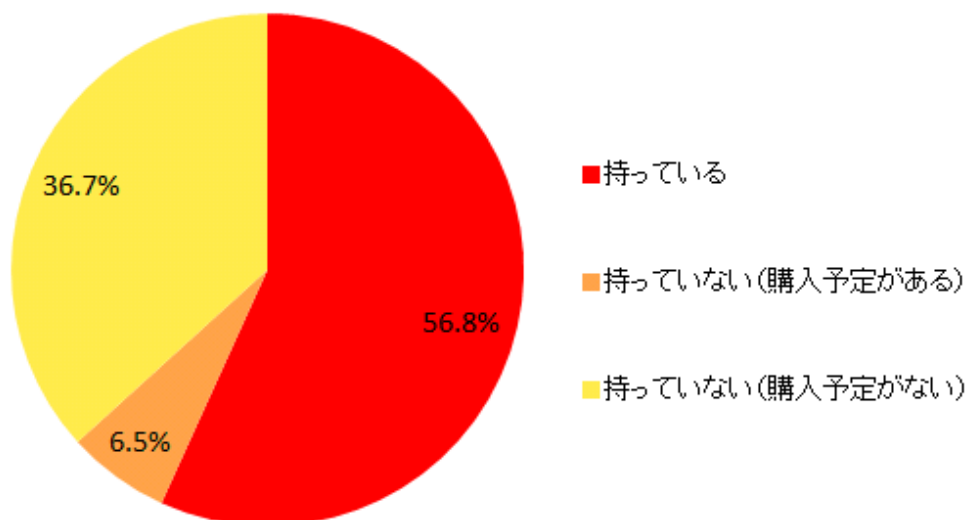
【図3-2 所有しているパソコンの使い道（複数回答）】



タブレット端末の所有率：56.8%と、前回調査（53.2%）比で3.6ポイント増加

タブレット端末の所有率は56.8%で、前回調査（53.2%）と比較すると3.6ポイント増加しています（図4）。タブレット端末の購入時期を聞くと、直近1～2年以内に購入した人の割合は前回調査に比べて10ポイントほど減少しており、普及スピードは落ちてきているようです。

【図4 タブレット端末の所有率（単一回答）】

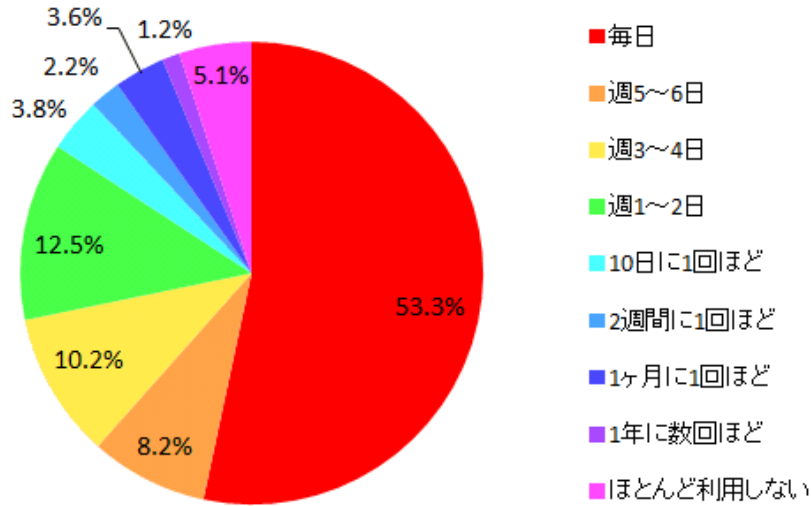


タブレット端末の利用頻度：半数以上が毎日利用するも、ライトユーザーが増加

前回調査と同様、利用頻度では「毎日」が53.3%と最多で、割合もほぼ変化はありませんでした。安定したヘビーユーザーがいるいっぽうで、中間層の「週5～6日」「週3～4日」の割合が2015年

と比べて合計4.7ポイント減少し、また「週1～2日」以下の利用頻度の割合が5.1ポイント増加していることから、中間層がライトユーザーに移行してきていることもうかがえます。

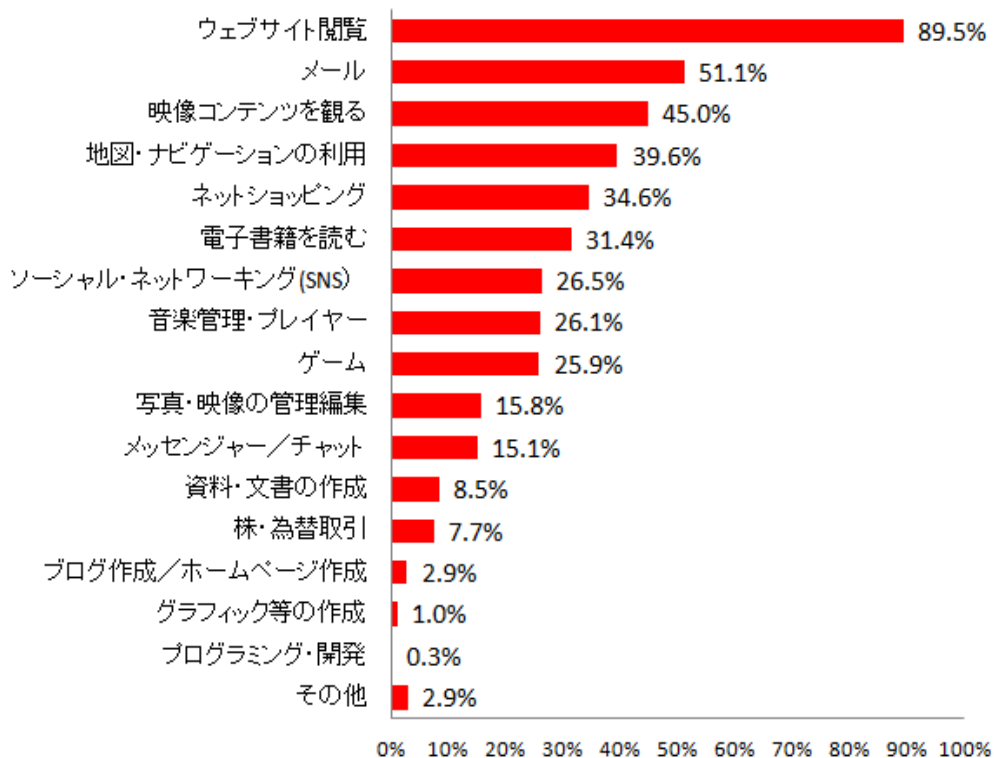
【図5 所有しているタブレット端末を利用する頻度（単一回答）】



タブレット端末の利用目的：軒並み前年を下回る。利用機会自体が減っている？

利用目的について、前回調査とほとんど変化がなかったパソコンに比べ、タブレット端末は各項目で軒並み前回調査を下回る結果となりました。近年、スマートフォンが大画面化し性能が高まったことにより、タブレット端末を利用する機会そのものが減っているようです。

【図6 所有しているタブレット端末の使い道（複数回答）】



【まとめ】

今回の調査では、パソコンの所有率は98.2%、タブレット端末の所有率が56.8%と、いずれも前回調査を上回る結果となっています。

前回の調査では両者で利用頻度および利用機会の減少が見られましたが、今回の調査ではパソコンは前回とほぼ同水準を保ったいっぽう、タブレット端末は利用頻度の高かった中間層がライトユーザーへと移行し、利用目的もほぼすべての項目においてさらに減少するなど、明暗が分かれました。スマートフォンやタブレット端末の普及が一段落してきたことで、パソコンについては利用機会の減少に歯止めがかかったようですが、逆にタブレット端末は、年々高性能化・大画面化していくスマートフォンによって、利用の機会を奪われているという状況が読み取れます。

また、大きく変化があった点として、パソコンのOSシェアがあげられます。

2015年8月にリリースされた「Windows 10」のシェアは、リリース直後におこなった前回調査時点で15%程度だったものの、無償アップグレード期間が終了してから半年ほどが過ぎた今回調査の結果では56.6%までに伸びています。その分「Windows 7」および「Windows 8/8.1」の割合が大幅に減少しており、2015年後半から2016年にかけて、大半のユーザーが「Windows 10」に移行したことがわかりました。

【調査パネル】

調査エリア : 全国 調査対象 : 価格.comID 登録ユーザー

調査方法 : 価格.com サイトでの Web アンケート調査

回答者数 : 3,039 人

調査期間 : 2016年12月8日～2016年12月14日

調査実施機関 : 株式会社カカクコム

※四捨五入による端数処理のため合計が100%にならないことがあります。

▼アンケート結果、および過去の調査アーカイブはこちらのページでもご覧いただけます

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【価格.com サイトデータ】(2016年9月現在)

月間利用者数約4,502万人、月間ページビュー約7億5,325万PV

<利用者内訳> PC : 2,100万人 スマートフォン : 2,384万人

データの引用・転載時のクレジット表記について

本調査結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明記くださいますようお願い申し上げます。

クレジット表示例

- ・「価格.com」調べ
- ・購買支援サイト「価格.com」が実施した調査によると…